

アカデミックフェア 要旨

私は第 17 回アカデミックフェアにおいて「ストリートからホワイトハウスへ〜ヒップホップが政治を動かす〜」というタイトルで発表しました。この発表ではヒップホップがストリートで生まれたマイナーな黒人文化からアメリカ大統領選挙にまで影響を与える存在へと成長したプロセスを述べました。

まず、ヒップホップの誕生について紹介しました。ヒップホップの生みの親と言われている DJ クール・ハークが 1973 年にブレイク・ビーツという DJ の新しいテクニックを生み出しました。この技術こそがヒップホップの基礎となります。ハークはこの技術を武器に、地元でパーティを開催します。ハークに刺激を受けた若者が別の地区で同じようなパーティをはじめます。このパーティでは、DJ がプレイする楽曲にあわせてダンス・クルーが技を競い合い、パーティの MC がビートに乗せてラップを披露しはじめました。こうして 1970 年代半ばまでにヒップホップの四要素となる、ラップ、DJ、ブレイクダンス、グラフィティがサウス・ブロンクスで統合されます。次にこの四要素の中から「ラップ」について取り上げました。「ラップ」とはおしゃべりという黒人英語で、リズムに乗って早口でしゃべることを指すようになりました。ラップ・ミュージックは「貧困」と上流階級との「格差」の 2 つの不満のはげ口として生まれました。そのラップの技術として「シグニファイイング」という表現技法を紹介しました。この技法は、言い換えができる表現のことです。実際に 2Pac の曲を流して紹介しました。その後、ヒップホップが東海岸中心の音楽だったのが 1980 年代に入り、西海岸で流行っていく背景について述べました。西海岸のラップは主にギャング出身のラッパーがリアルなストリートライフを可視化した「ギャングスタ・ラップ」がメインでした。このギャングスタ・ラップは刺激を求める多くの若者たちから共感を得て全米でヒットしました。ヒップホップは、黒人だけでなく白人や様々な人種から絶大な影響を与えました。そして政治と結びついていきます。レーガン政権下ではヒップホップは社会的墮落の象徴として批判の矢面に立たされていました。しかしヒップホップの大成功により、政治力として活用しようとした人物が現れます。それがシモンズです。シモンズは HSAN というヒップホップを使って社会変革を目指すアメリカの非営利団体を立ち上げました。この HSAN は 2004 年の大統領選挙の際、若者を中心に有権者登録を大都市で行うキャンペーンを開催しました。最後にオバマ大統領の誕生について触れました。2008 年の大統領選挙の際、「人種的な権利の侵害、警察の残虐行為、蔓延する貧困、過度な教育的不平等などについて真剣に語るラッパー」によって「オバマ応援歌」が作られました。この応援歌の影響もあり、2009 年に黒人初のアメリカ大統領が誕生しました。